

全国消防最前線 88



災害時における連携を目標として消防関係者と医療関係者との顔の見える関係をつくる 奈良市消防団・DMAT・DPAT合同訓練



仲川げん奈良市長



奈良市は2月9日、奈良市消防団、DMAT、DPATとの合同訓練を奈良ロイヤルホテル（奈良市法華寺町）で実施した。主催は、奈良市消防団。

この訓練は、奈良市における局所災害（大地震）を想定し、消防団による被災者の避難誘導、避難所での傷病者や精神科医療を必要とする被災者への初動対応処置ができる体制を確立することを目的に実施されたもので、これまで、他の地方公共団体でも同一の総合防災訓練等に消防団、DMAT（災害派遣医療チーム）及びDPAT（災害派遣精神医療チーム）が参加し、それぞれ個別に訓練活動をする例はあったが、消防団（PFA研修済み団員を含む）と各専門チーム（DMAT、DPAT）との合同連携訓練は、全国でも初めての試みとなる。

実際の災害時に地域の防災・減災の中核を担う消防団が、専門チームであるDMAT、DPATとの連携訓練を実施することにより、地域防災力の強化、災害時における、よりスムーズな救援・救護体制の構築を図ることが期待されている。

訓練実施の経緯

奈良市では、平成25年12月13日に公布された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」により、消防団を中核とした地域防災力の強化に



訓練会場となった奈良ロイヤルホテル（奈良市法華寺町）

取り組んでいるが、その取組の一つとして、平成26年7月には消防団員を対象にWHO版の心理的応急処置「サイコロジカルファーストエイド（PFA）」の研修（近代消防・平成26年11月号参照）を受講し、専門家以外でもできる心理的応急処置を習得している。

災害時には、それぞれの機関が単独では機能することが難しく、消防関係機関、医療関係、行政等が連携を強化することが重要となる。

そこで、平時から「顔の見える関係づくり」を構築していくことが必要と考え、奈良市では今回の「奈良市消防団、DMAT、DPAT合同訓練」の実施に向けて準備を進めてきた。

■DMAT（Disaster Medical Assistance Team）

医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームのことで、阪神・淡路大震災で初期医療体制の遅れによる「避けられた災害死」が多くあったとの考えにより、“一人でも多くの命を助けよう”をテーマに各行政機関、消防、警察、自衛隊と連携しながら救助活動と並行し、医師が災害現場で医療を行う必要性から、厚生労働省により、災害医療派遣チーム、日本DMATが平成17年4月に発足した。

■DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team）

自然災害等の集団災害の発生により、被災者に災害ストレス等による新たに精神的問題が生じる場合に、被災地域の精神保健医療ニーズの把握、他の保健医療体制との連携、各種関係機関等とのマネジメント、専門性の高い精神科医療の提供と精神保健活動の支援のために、都道府県と政令指定都市によって

組織される、専門的な研修・訓練を受けた災害派遣精神医療チーム。（災害時こころの情報支援センターのホームページ：<http://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/dpat/index.html>）

■心理的応急処置（PFA：Psychological First Aid）

極度に痛ましい出来事（自然災害、飛行機事故、戦争や紛争、事故、盗難、火事など）に遭遇した被災者を援助するための人道的なアプローチのことをいい、Do No Harm（何よりも、害を与えてはならない）の原則に基づいて、実際に役立つ方法として実施されているもので、心理的デブリーフィング（災害やつらい経験をした後でその出来事について詳しく話し、つらさを克服する手法）に代わるものとして推奨されるもの。

しかし「PFA」は、トラウマによる長期に渡った精神的健康の後遺症を防ぐようなものではなく、また、後に精神障害へと悪化するリスクのある個人を、信頼性のあるかたちで特定するのに役立つようなものでもない。（奈良市消防団が受講した研修の様子は、近代消防・平成26年11月号を参照）



川崎政信奈良市消防団長による開会宣言



訓練概要説明を確認する訓練参加者

訓練の参加者

この合同訓練の参加者は、奈良市消防団、奈良市消防局をはじめ、災害時こころの情報支援センター、消防団員等公務災害等共済基金、DMAT（市立奈良病院）、日赤救護班（京都第一赤十字病院、日赤救護班京都府支部）、DPAT9自治体（奈良県、千葉県、富山県、静岡県、大阪府、岡山県、山口県、福岡市、沖縄県）、奈良県精神保健福祉センター、奈良市医師会、奈良市保健所、奈良市危機管理課、奈良市自主防災防犯協議会、奈良市女性防災クラブ、奈良ロイヤルホテル、他市町村消防団（橿原市、生駒市、大和郡山市、大仙市〈秋田県〉、伊賀市〈三重県〉）など、計427人が参加。

さらに総務省消防庁、厚生労働省、奈良市議会、陸上自衛隊第7施設群、日本火災学会、JR西日本、奈良県医師会、奈良県消防協会、奈良県下消防本部、奈良県下消防団、奈良県防災統括室、奈良県消防救急課、奈良市自主防災防犯協議会、他市消防団等の多くの消防防災関係者が訓練を視察した。

訓練開始に先駆け、川崎政信奈良市消防団長による開会宣言、仲川げん奈良市長、室田哲男総務省消防庁国民保護・防災部長より挨拶が行われた。

また、高市早苗総務大臣より今回の訓練に対する激励のメッセージ（下部で紹介）が寄せられ、室田部長より披露された。

その後、渡路子・災害時こころの情報支援センター室長より訓練概要説明が行われ訓練が開始された。

高市早苗総務大臣からの激励のメッセージ

奈良市消防団、DMAT、DPAT合同訓練の開催にあたりご挨拶申し上げます。

奈良市消防団をはじめ、本日ご参集の皆様におかれましては、各地域において日ごろから地域の安心安全のために献身的に活動していただいております心から敬意を表します。

近年、地震、台風、局地的な豪雨、豪雪、火山噴火などによる災害が多発しています。一昨年成立いたしました「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」を踏まえ、消防団を中心にこれらの災害に対応する地域防災力の充実強化を図る必要があります。

奈良市消防団は地域住民による防災活動を促進するため、例えば地区防災会が実施する防災訓練において消防団が救助資機材を活用して、倒壊家屋からの救出方法を住民に指導をし、技術の向上を図るなどの事業を実施していると伺っています。

また、奈良市女性消防団員は体操しながら応急手当の

動作を体得する「やまとなでしこ体操」を創作し、昨年8月に開催されました「地域防災力充実強化大会」や「全国女性消防団活性化大会」においてご披露いただきました。さらに、本日の訓練は消防団に加え、DMAT、DPATなどの医療関係や行政機関なども参加し連携を図るものです。

災害時には様々な関係機関との連携が必要となるため本日の訓練は全国的にも画期的なものであり、全国に紹介していきたいと考えております。

私は、国民の生命と財産を守ることが国家の究極の使命であると考えております。地域防災力の充実強化を図り防災対策をしっかり前進させるために消防団を全力で支援して参る所存です。このため、女性や若者をはじめとした消防団の加入促進や消防団の装備の充実などを図って参ります。

本日ご参集の皆様にとって、本日の訓練が実りあるものとなることをご期待申し上げますとともに皆様の益々のご活躍を心から祈念申し上げます。



災害発生に伴い詰所に集合した団員。副団長より避難誘導を指示



避難誘導中に負傷者を発見



単独で歩行できない住民を車いすを使用し避難所まで移動



簡易担架を使用し負傷者を避難所まで搬送

訓練開始

今回の合同訓練の想定は、「平成27年2月9日(月)午後3時10分、奈良盆地東縁断層帯を震源とする内陸型地震が発生、地震規模はマグニチュード7.0で震源の深さは約10km、震度6強を観測したのは奈良市のほか12市町村。奈良市内では液状化、斜面崩壊が発生、道路や鉄道が寸断され家屋が倒壊、各地で火災が発生している。奈良市災害対策本部が立ち上がっている。住宅地の住民と観光客が多くいる東大寺の2か所の避難誘導が必要な状況。」との想定で訓練が開催された。

訓練では奈良ロイヤルホテルを全館貸し切り、ホテル3階客室を住居、2階別館のホワイエを東大寺と想定し、避難誘導訓練が行われた。

2階のホワイエに、奈良市災害対策本部、避難所（東大寺境内と想定・エリアを4分割して様々な避難者状況を設定）を設置し、全館停電状態で実施した。

訓練Ⅰ：避難誘導訓練（2月9日(月)と設定）

※発災後、消防団詰所に集合した消防団員は、副団長の指示のもと住宅地（住民）、東大寺（参拝者）の2か所へ避難誘導に向かい、被災者を避難所へ誘導する。

訓練では、発災後、災害対策本部を設置し、消防団は住居や観光地等から住民と参拝客の避難誘導を実施した。

〔設定：住宅地（3階・居室）被災者10名〕

- ・寝たきり高齢者（1名）担架搬送
- ・要介護高齢者（1名）
- ・歩行可能（8名）うち6名のみ誘導

※2名の高齢者夫婦を誘導できず。夫に認知症があり避難を拒否された。

〔設定：観光地東大寺（2階・ホワイエ）被災者10名〕

- ・負傷者（1名）担架搬送
- ・要介護高齢者（1名）車いす搬送
- ・歩行可能（8名）誘導

（訓練Ⅰの参加者：避難誘導〈奈良市消防団〉、避